



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.



バチセレクション登場!

PLEX

sinking type jointed lipless for salt water



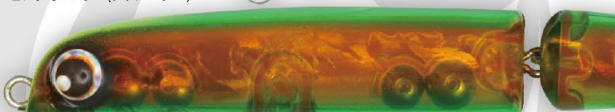
クリアレインボー (クリアマグマ)



チャートクラウン (クリアマグマ)



ピンクオレンジ (クリアマグマ)



グリーンブラウン (クリアマグマ)



マジックグリーンレッド (クリア)



グローテールブラック (クリアマグマ)

※シーズン限定生産

テスター 山内勝己が解説!

いよいよ発売を目前にした、LONGIN 第5弾ルアー「フランキー」! その使いどころやアクションについて、ルアービルダー伊藤とともに実釣テストに参加したフィールドテスター山内勝己が、ユーザーに先駆けてその実力をファーストレビュー!

Text by 山内勝己

新製品
フランキー
ファーストインプレッション!





LONGIN 第5弾製品となる『FRANKY (フランキー)』の話をする前に、私にとってLONGIN ルアーとはどういうものなのか、そしてどのような想いからフランキーが生まれたのかについて、はじめに書かこうと思います。

まず私にとってLONGINのルアーは、メーカーの関係者だから言うのではなく、いちアングラーとしてどのルアーも私の釣りを成立させるため、そして釣りという遊びを楽しむために欠かせないものです。すでに発売されているLONGIN 4製品について、ご存知の方も多いと思いますが、まだ使用したことのないという人のために簡単に説明します。

まずは「KICKBEAT (キックビート)」。15g、20gと2サイズあるバイブレーションですが、これは一般的なバイブレーションの使い方となるデイゲームで軸となるルアーですが、バイブレーションでありながら流れを利用する釣りも得意とします。なおかつランカーサイズを狙う上で重要な地形を意識した釣りにも使いやすい新感覚のバイブレーションと言える製品です。

次は「PLEX(プレックス)」。85mmというサイズのジョイントルアー

でありながら、このカテゴリでは群を抜いた飛距離を持ち、そしてレンジの融通性と攻めの幅が広く、トリッキーアクションで様々なベイトパターン、ルアーローテーション上で重要なクローザーとして活躍してくれる今までに無いタイプのジョイントルアーではないでしょうか。

最後に「JINPEN (ジンペン)」。

このルアーは、トップウォータープラグなのですが、シーバスフィッシングには新しいカテゴリとなるダイビングペンシルです。従来のトップの釣りの魅力はもちろん、誘い出しでフィッシュイーターであるシーバスの捕食スイッチを入れることでバイトに持ち込む、ゲーム性にも優れた釣り人を楽しませてくれるルアーであります。

どのルアーもしっかりとした作り手のコンセプトがあり、また応用の幅も広いルアーというのが私が LONGIN 製品を使った最も大きな印象で、私の釣りもさらに充実したものになりました。

4製品で満足はしていたものの……

ですが、人とはなんとも贅沢なもので……。私にはラインナップにもう一つ、どうしても欲しかったルアーがありました。

それは、必ず最初に自信を持ってキャストすることが可能な「サー

FRANKY

全長：120mm ウェイト：20g Floating
交換推奨フック：#6 定価：1,995円（税込）



チベイト」です。そのルアーに必要とされるのは、フィールドの状況を読む力を持っていること。それは流れであったり、ターゲットのシーバスの反応を見るなど、その日のゲームプランを立てる上でとても重要な役割を果たしてくれるルアーであり、もちろん確実な釣果も望めるルアーということが絶対条件です。



私にとってそのルアーが、LONGIN 第5弾ルアーとなるフランキーです。完成に至るまでのテストでは本当に数多くのトライ＆エラーを繰り返してきました。そのおかげで、今ではフィールドで準備を済ませロッドを持ったとき、迷わずラインの先に最初にセットできる、自信を持って繋がっているルアーとなっています。

フランキー製作のきっかけ

フランキーを製作する事になったスタートラインは、「ワイドアクションのシャローミノーを作りたい」という伊藤さんの言葉から、開発の長い道のりが始まりました。

ビルダーである伊藤さんが頭の中にあるイメージをウッドで削り出し、幾つものブランクを削り出しては、フィールドに足を運び、そしてようやくアクションなどがイメージと合ってきたところで、私もテストに参加することになりました。

ここから先がまた長い道りになることはもちろん解っていたのですが、ウッドで削りだしたブランクをキャストし、泳ぐそのルアーを大の大人がニヤニヤしながら眺めていたのを、今でもハッキリと覚えています（笑）。

完成までの道りの中には、ときには悩み、壁にぶつかる事もあり

ました。ゴールにあるであろう喜びと感動に向けてテストは繰り返されていきますが、そこにもうひとつ、完成に近づくにつれて早く皆様に「使って遊んで頂きたい」・「楽しんで頂きたい」という気持ちも大きく膨れ上がって行きます。

そして、完成したときの喜び、完成されたルアーで魚を手にしたときの喜びと感動は本当に大きなものでした。これはきっと造る側の特権なのでしょうが、フランキーを使って魚をキャッチした方には僕らの想いを感じていただけたと思います。

こうした過程を経てフランキーは完成し、いよいよ発売を待つのみとなりました。早く皆様に遊んで頂き、その高いポテンシャルを生かした釣りを楽しんで頂ければと思います。

フランキーのコンセプトと特徴は？

さて、前置きが大変長くなってしまいましたが、フランキーの特徴とコンセプト、私なりの使い方を書かせて頂きたいと思います。

まずはコンセプト。これは2つあります。

1. 『フィールドの状況や僅かな変化を感じ読む事の出来るルアー』
2. 『ただ巻きで、誰にでも簡単に「シーバスの捕食スイッチを入れる可変アクション」を自動的に演出してくれるルアー』

これらを実現するためには『僅かな流れの変化を感じる事が出来る感度』『流れを受ける、そして受け流すことが可能な絶妙なバランス』が重要となります。これはフランキーの特徴にも大きく関わって



ますが、フランキーには小さなリップが付いております。見た目からリップ付きの普通のミノーにも見えるし、そのリップサイズから人によってはリップレスミノーにも見

えるのではないでしょうか。

答えはというと、『どちらでも無い』が正解かもしれません。不思議に思われた方のために、その理由について解説しましょう。

まず、リップ付きミノーの良さは『流れの抵抗をしっかりと受けやすい』ことと『レスポンスが良い』ことで、流れやアクションに対して敏感になる点です。

次に、リップレスミノーの良さは『流れに対してルアーがボディー全体で水をまってくる』『流れを受け流す事に優れている』ことが挙げられます。これらは、流れの中でナチュラルな泳ぎやシーバスに違和感なく食わせることにおいて重要な要素です。

ではフランキーは？

簡単に説明すると『両者の良いとこ取り』の設計となっているのです。これは何回ものテストから絶妙なサイズと形状のリップを探し出すことでやっと完成したものです。小さなリップによって僅かな流れの変化をも感知しやすく、そしてリップレスミノーのようにボディーが流れをまとい受け流す。これには、ナチュラルかつ食わせのアクションに大切な要素も備わっております。

リップ形状やボディー形状、ウェイトバランスをフィールドテストで何度も確認し、ときにはビルダーである伊藤さんが、ヤスリとプライヤーを片手にその場で微調整、現場で作業ができないものは工房へ

戻って調整するなど大変な手間と時間がかかりましたが、一切の妥協をせずにこだわりぬきました。

この小さなリップは、流れを感知する、そしてアクションの元となるいわば『小さなアンテナ』という言葉が当てはまります。



流れによって可変する 3つのアクション!



フランキーのアクションはリトリーブスピードや流れの強さによって、三種類の異なるアクションを起こします。

低速リトリーブ時や、流れの抵抗が弱い場合はフラフラと弱ったベイトを演出するかのような『ロールアクション』。中速リトリーブでは『タイトウォブンロール』。高速リトリーブや流れの抵抗が強い時は『超ハイアピールワイド系ウォブンロール』と、巻き速度や流れの強さによってアクションが可変するのです。

ここで重要なのが、ハイアピールアクション時のピッチが一定ではないということです。そのためにシーバスに見切られにくく、捕食スイッチをハイアピールでも入れる事が可能になりました。これは、先ほど書いたリップ付きミノーのレスポンスとリップレスミノーの流れを受け流す、このバランスが良いからこそなせる技と言えるでしょう。

アクションが可変することのメリットは他にもあります。タダ巻きをしているときでも、流れの変化にルアーが入ったところでオートマチックに可変アクションを起こし、シーバスの捕食スイッチを入れバイトに持ち込んでくれます。もちろん、アングラーの意図でリトリーブスピードを変化させて可変アクションを演出する事もできますよ。

フランキーの使い方

最後にフランキーの使い方ですが、難しい事は何もありません。

『投げて巻く』が基本です！

この動作は、ルアーフィッシングの中でもっとも基本となる動作ですが、フランキーの使い方の基本もここにあるため、基本に忠実で使いやすいシャローミノーになっています。

アップやアップクロスの釣りでは、流れと同じ方向にルアーを引く

こととなります。この場合はリップにしっかりと水の抵抗を当ててもらいたいので、流れより速くタダ巻きするだけでOKです。応用で、リトリーブスピードの変化をつける事で意図的にアクションやアクションの幅を変え、シーバスを誘うのもいいでしょう。



ダウンやダウクロスの場合は、ルアーが流れに対して逆らう向きになるので、そのときの流れの強さに合わせて抵抗を感じてもらえれば、流れの変化でルアーが自動的に可変アクションを起こし、ときにはふらついたりして、食わせのアクションを演出してくれます。

使い方が簡単なのももちろんですが、フランキーの最大の魅力はなんと言ってもサーチベイトとしての性能の高さです。

流れのある河川や、広大なフィールドである大規模河川の河口域や干潟など、どんなエリアにも共通しますが、フィールドに立ったときに大切なのは「フィールドの状況を把握する」ことです。

そのためには、潮目など視覚で確認出来る物を探することも大切ですが、目には見えない感覚から伝わる情報をしっかりとアングラーに伝えてくれるルアーの存在が必要不可欠になります。

今年の1月、2月に私がメインに通っていたフィールドは大規模河川の河口域なのですが、シーズンパターンとしては産卵を終えたアフターシーバス狙いでした。その中でもグットプロポーションのサイズ狙いとなると、バチ絡みではなくベイト着きのシーバスを狙う戦略となります。

エントリーした河口域は広大なエリアなので、シーバス、そしてベイトの着き場などを予測し、探し当てなければ釣果は望めません。そ

ここで出番となったのがフランキーです。飛距離を生かして広範囲の流れを探せるこのルアーで、潮位やタイミングによって刻一刻と変わる僅かな変化を掴み、魚のいる流れを探し当ててはその流れの変化で起こる「オートマチックな可変アクション」によりシーバスをバイトに持ち込む事が出来ました。

パターンとしてはダウクロスのアプローチで、水を噛むのを感じられるくらいのスローリトリーブのまま流れの中を漂わすイメージでルアーを流しこみ、流れの変化に差しかかりルアーが可変アクションをしたりバランスを崩すところで、バイトが集中していました。

流れを知り、もっと釣るためのルアー！

シーバスフィッシングをはじめて間もない人は「流れが分からない」と言う方も多いかと思います。しかしフランキーなら流れを感じ取ることが誰にでも可能です。まずはルアーが受ける抵抗の強さを集中して感じて下さい。これを繰り返す事で、自ずと釣れる流れを体で覚える事が出来るようになるかと思います。流れの強弱が感じられるようになると、シーバスがもっと釣れるようになりますよ！

サーチベイトとしての優れた能力は、ベテランアングラーの方にも満足して頂ける仕上がりです。LONGINのこだわり、そして私のこだわりもたくさん詰まったフランキーで是非、皆様に遊んで頂けたらと思います。

山内勝己（やまうち・かつみ）

fimoアドバンスとして日々活動する山内氏は、千葉県河川の河川や干潟をメインフィールドとし、時期や時間を問わず安定的な釣果を上げている凄腕のシーバスアングラー。経験から培われた流れや地形の変化を読み取る高い能力をもとに、日々ランカーを求めてフィールドに通っている。



その泳ぎ、
全てを感知する！



わずかな流れの存在も把握する
センシティブ・サーチベイト誕生

FRANKY

—フランキー—

120mm 20g Floating 1,995 円(税込) 新発売!

フランキーは、流れの強い河川から干潟などの広大なシャローエリアを広くカバーし、効率よく探るためのサーチベイトとして開発されたシャローレンジ専用ミノ。フランキーの潜行深度は水面直下から60cm。潮の干満による潮位の変化や、リアクションの変化に素早く広く対応するためのレンジ設定です。

水掻きが強クアピールの大きな泳ぎでありながら、ボディシェイプとウエイトバランスの絶妙なバランスを追求することで、強い流れに対してもリップレスミノのように水を受け流すことで引き重りなく巻いてこられる使い勝手の良さと、シーバスを魅了するハイアピールアクションというふたつの要素を両立。それぞれ大きさの異なる高比重タングステンウェイトボールを4個使用し、更に移動玉を固定するためにマグネットを装着する事で、安定した抜針の飛距離とハイアピールで切れのある泳ぎを同時に実現しました。低速巻ではロールアクション、中速巻ではタイトオープンロール、高速巻になると超ハイアピールワイド系ウォブロール。絶妙なボディ形状により、強い流れでも飛び出さないよう設定。リトリブ速度に応じて可変アクションを誘発させ、流れの変化を敏感に感知すると同時にアクションの変化で自然な食わせの間を演出します!



カラー(左より): 022 ブルーマイワシレッドヘビー (シャレンボディ)、023 コシシロ (プレーンボディ)、004 オラ (レンズボディ)、025 レンズキャンディー (獨特ウキ)、026 金ワラ (メッキ) 027 チャートゴールドグリーンキャンディー (マグマ)、028 ブラウリア (クリアマグマ)、029 チャートパールオレンジ (クリアマグマ)、030 クリアパール (クリアマグマ)、009 レッドヘッド (独特パール)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE VOL.7

発行日：2013年2月26日

株式会社 LONGIN.